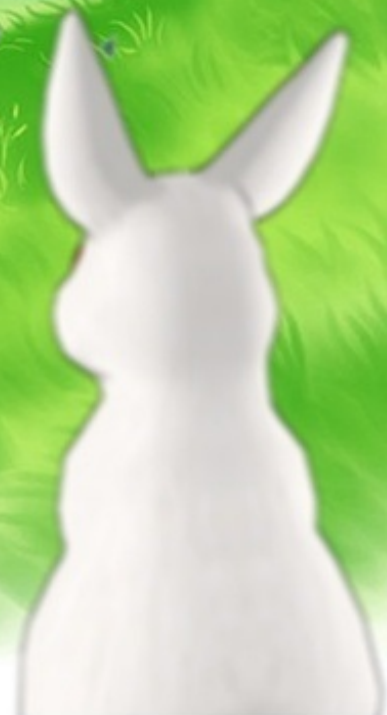


ぼくが大好きな
きみのうた



MADASS





その時だった



その人間は
不思議な音を
出しはじめた

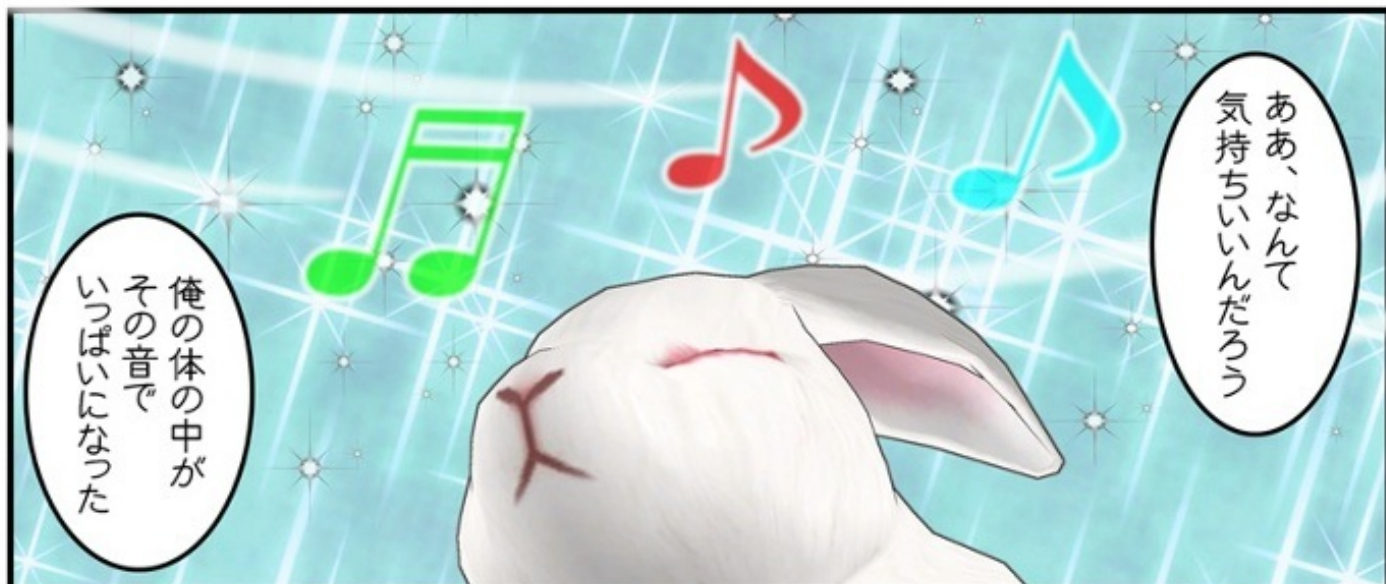
それは今まで
聞いたことの
無い音だった



俺はあの音をもっと
よく聞きたくて
危険も忘れて人間に
近づいていった

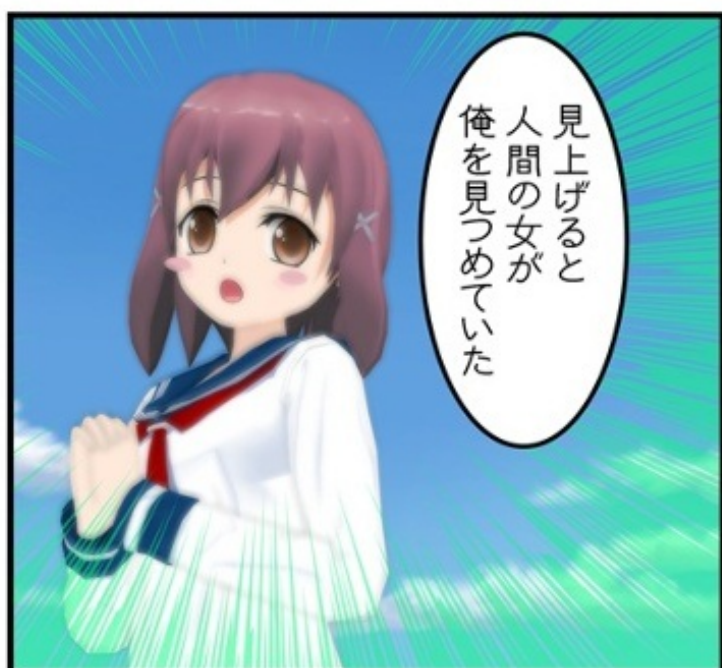


そしてその音は
俺の耳にとても
気持ちよく響いた



ああ、なんて
気持ちいいんだろう

俺の体の中が
その音で
いっぱいになった



見上げると
人間の女が
俺を見つめていた



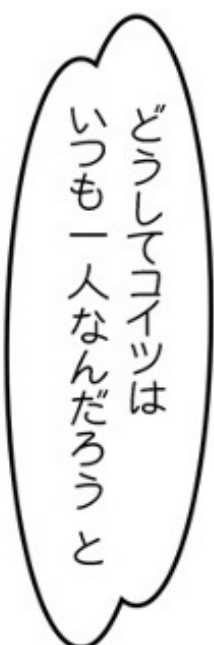
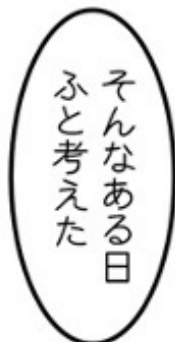
しばらくして
不意に音が止んだ

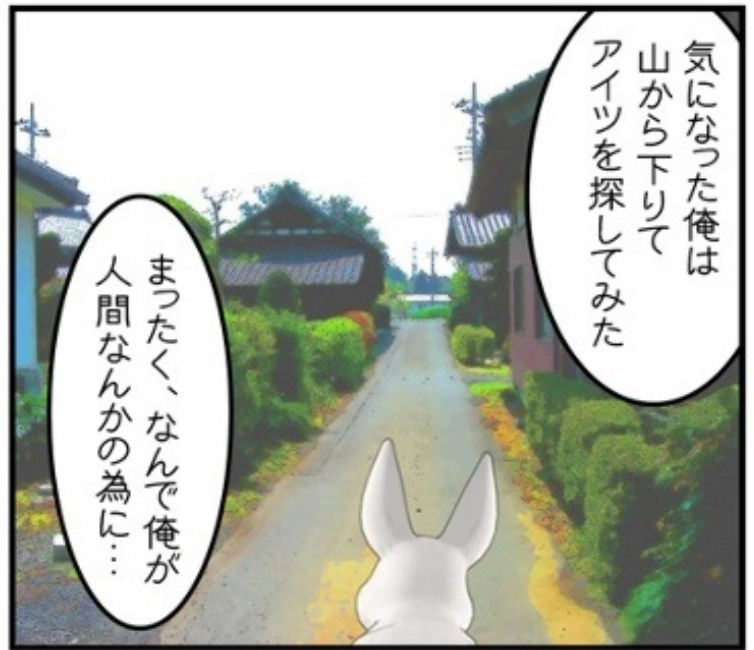


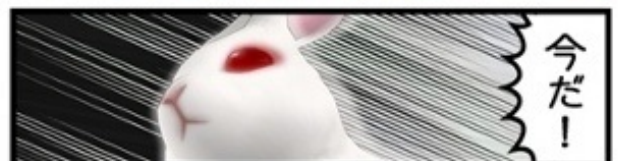
俺とした事が
人間に近づき過ぎた！

俺はまさに
脱兎のごとく
逃げ出した







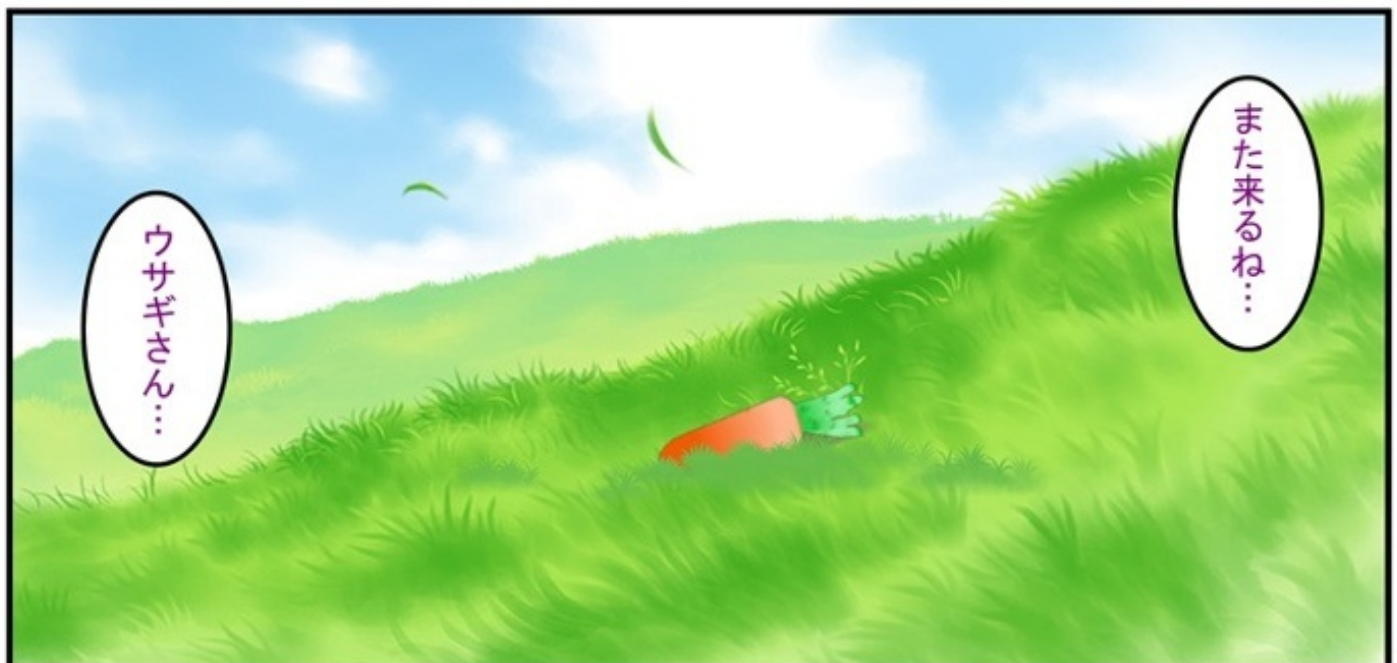


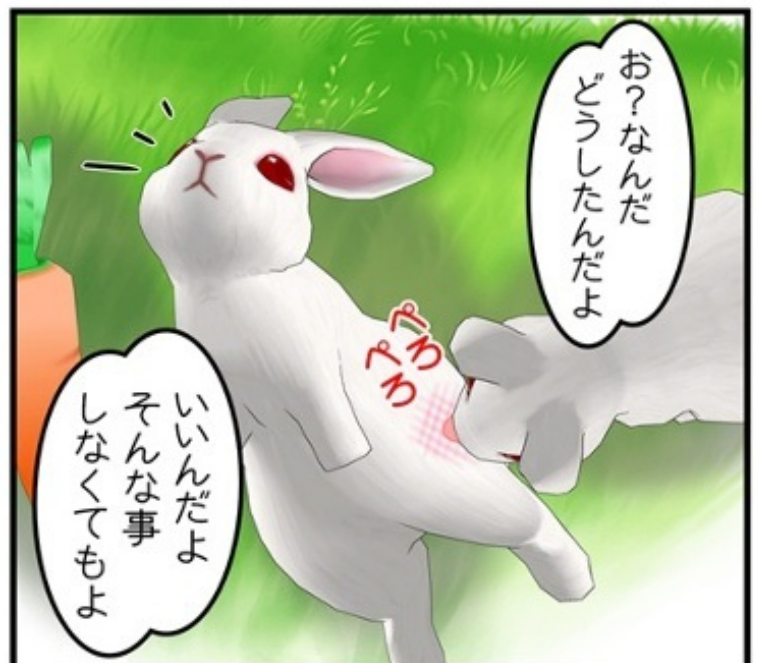
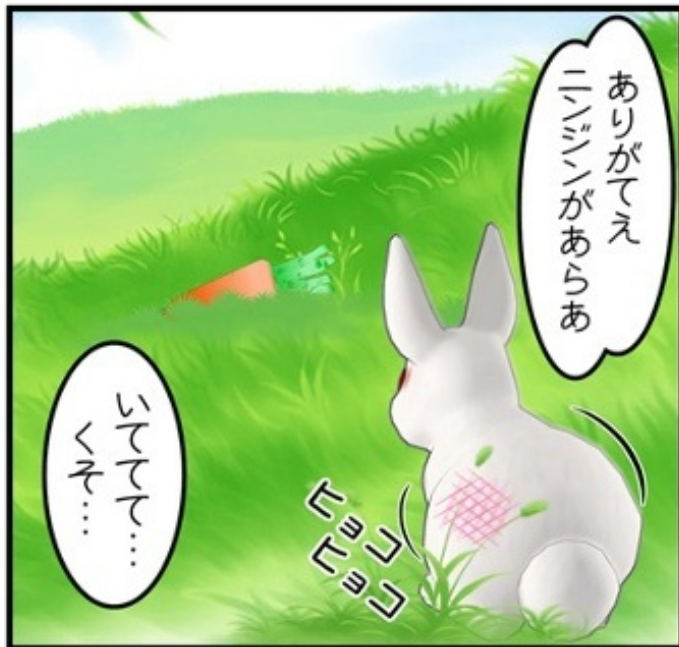




















どうしたの？
宇佐美さん？

えっ？

だっ!!



そんな！あの時
小石川さんたちを
連れてきてくれたのは
ウサギさん、
あなただったの？

あなたは私の
たった一人の
友達だったのに

私、すっかり
あなたの事を
忘れてしまっていた…



ボールをぶつけられて
怪我をしたかも
しれないのに

私はそんな事も
知らずに舞い上がって
しまっていた…


ごめんなさい
ごめんなさい
どうか
無事でいて！











さようなら
ウサギさん！
幸せになってね！

ありがとう！

おしまい

ぼくが大好きなきみのうた

<http://p.booklog.jp/book/41626>

著者 : MADASS

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/madass/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/41626>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/41626>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.